



# み な と

第 4 号

発行：社会福祉法人 みなと寮 ホームページ <http://www.minatoryo.or.jp>

・大阪府より指定を受けた「居住支援法人」を地域貢献の取り組みの1つに位置づけ、住宅確保要配慮者の生活の安定及び向上に関する情報提供、相談その他の援助を行い、対象者が安心して住まいを見つけ暮らせる環境作りに取り組む。

・個人情報保護の観点について、IT機器やソフトウェア資産を一元管理し、IT資産の有効活用を支援するクライアント運用管理ソフトウェア「SKYSEA Client View」を

・法人内に設置している法人施設連絡会議、事業部長会議、各事業部会議、主任会議等を定期的に開催し、連絡調整、情報交換等を行い組織内連携の強化を図る。

・組織改革として、研修を強化し人材育成を図るため、新たに「研修企画部」を設置する。

**社会福祉法人みなと寮 平成30年度運営方針**

3月23日の理事会において、法人の平成30年度運営方針が決定され、これに基づき各施設・事業所の新年度の事業計画及び予算が審議されました。この運営方針は、法人の「理念」「基本方針」「ポリシー」を踏まえた新年度の法人運営の要となるものです。

平成30年度は、昨年度に体制整備を行った社会福祉法人制度改革を着実に推進していくため、「地域における公益的な取組」をはじめ公共性、非営利性を意識した取り組みを進め、法人の存在意義を高めることを基本としました。

運営方針のうち平成30年度に新たに取組む内容の要点は次のとおりです。

**(研修企画部)**

・研修計画の策定、研修参加記録のデータベース化、スーパービジョン実施体制の構築など、研修体系を整備する。

・個別支援計画の策定と、これに基づいた支援を行う力を向上させるため、全直接支援職員を対象にした研修を計画的に実施していく。

**(介護保険事業部)**

・平成27年度の介護報酬引き下げにより、介護保険事業は厳しい収支状況が続いており、今年度の報酬改定でも厳しい状況は続くことが予想される。各施設・事業所は、現状の収支状況の詳細を常に分析し、それに対応する細やかな財務改善を実行する。

・人材確保が急務である介護保険事業部では、職員採用プロジェクトチームを編成し、職員確保のための制度の新設等について検討する。

**(生活福祉事業部)**

全施設・事業所に導入し、電子情報セキュリティ対策の強化を図る。

・利用者の地域移行を進めるに当たり、障がいのある利用者について、地域の社会資源の活用や他法・他制度の利用調整を行い、安定した生活ができるよう支援する。

・法人の全保護施設の入所総合受付・相談窓口を一本化し、福祉事務所と連携しやすい環境を整える。

・最後のセーフティネットとして、様々な生活課題を抱える人々を受け入れ、「断らない施設」を目指す。

## 「救護施設こうせいみなと」で再出発

救護施設大阪府立第2港晴寮は、平成8年4月1日の開設以来、当法人が大阪市より委託(平成18年4月からは指定管理)を受けて運営を行ってきましたが、大阪府立保護施設条例の廃止に伴い、平成30年3月31日をもって廃止となりました。22年間にわたり皆様から頂きましたご指導ご支援に厚く御礼申し上げます。

4月1日からは民間移管施設となり、「救護施設こうせいみなと」として再出発致しました。引き続き利用者支援の向上に努め、自立に向けた取り組みを積極的に進めて参ります。今後とも当法人並びに「救護施設こうせいみなと」に変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



救護施設こうせいみなと

# トピックス

## 新任職員研修会を開催



### 新任職員の紹介 ～意気込みを聞きました！～

- 奥野可奈子/みなと寮 (写真前列左から3番目) 信頼関係の構築から頑張ります。
- 宮本さやか/千里寮 (写真前列左から2番目) 明るく、元気に目標を持って頑張ります!
- 浅野風季/愛港園 (写真後列右から3番目) 一挙手一投足。一つ一つ丁寧にこなしていけるよう、務めたいです。
- 宇野朱音/愛港園 (写真前列右から2番目) いつでも笑顔忘れずに頑張ります!
- 兵頭幸子/愛港園 (写真前列右から1番目) 自分らしく頑張ります。宜しくお願い致します。
- 氏家暢宏/弘済院第1特養 (写真後列左から5番目) 心機一転!!新しい環境で初心に戻ってがんばってまいります。
- 吉村衣里菜/弘済院第1特養 (写真前列右から4番目) 早く利用者の方の役に立てるようになります。
- 梅野末紗/弘済院第1特養 (写真前列左から4番目) 利用者さんが笑顔になる支援をしたいです。
- 益原 雪/弘済院第1特養 (写真前列右から3番目) 初心を忘れず励みます。お願い致します。
- 大谷 泉/第2愛港園 (写真後列右から2番目) 全力の笑顔で、精一杯支援していきます。
- 植村一輝/第2愛港園 (写真後列右から1番目) 自分にできることを、精一杯頑張ります。
- 池上康彦/千里寮 (写真前列左から1番目) 利用者の「困った」にまじめに取り組めます。
- 中岡康治/千里寮 (写真後列左から1番目) 傾聴姿勢を忘れず頑張りたいです。
- 山田公記/千里寮 (写真後列左から3番目) 入所者様のQOL向上の為にがんばります。
- 北原圭太/千里寮 (写真後列左から2番目) 一生懸命頑張りますのでよろしくお願い致します。
- 野田昭憲/弘済院第1特養 (写真後列左から4番目) 笑顔忘れず一生懸命取り組んでいきます。
- 山脇聖子/愛港園 (写真後列右から4番目) 未経験ですが、精一杯頑張っていきます。
- 上門美沙子/愛港園 (写真前列左から5番目) 愛港園の一員として、自分らしく前向きに取り組んでいきたいです。



救護施設千里寮での研修1日目の様子



第3号(平成30年1月発行分)の訂正とお詫び  
生活福祉事業部 第18回大阪救護施設合同文化事業の記事に誤りがありましたのでお詫びして、訂正致します。  
【訂正前】第4位にりんくうみなと 【訂正後】ユーモア賞にりんくうみなと

## 生活福祉事業

### 港晴寮の事業終了

救護施設 大阪市立港晴寮は、65年以上にわたる社会福祉法人みなと寮の歴史の中で、2番目に開設された施設であり、救護施設として最初に運営を開始した施設です。大阪市が昭和51年10月1日に港湾関係労働者の寮であった建物を救護施設に転用し、委託を受けた法人が「救護施設大阪市立港晴寮」（入所定員90名）の運営を開始しました。

平成7年の阪神淡路大震災により厨房の一部が傾くなど、年々老朽化が進みましたが、それでも多くの方が社会復帰や経済的自立を目指すための場として、この施設を利用してこられました。これまで延べ1488名の方が利用されました。

平成30年3月31日を持ち41年6ヶ月の歴史に幕を下ろすこととなりました。長きにわたり運営し続けてこられたのも、地域の皆様のご理解ご協力を始め、行政機関やその他関係機関の皆様のご指導ご鞭撻によるものと感謝申し上げます。

### 歴代施設長

- 安藤 房光（昭和51年～昭和57年）
- 山内 良雄（昭和57年～昭和59年）
- 宮本 吉隆（昭和59年～昭和62年）
- 大西 豊美（昭和62年～平成8年）
- 政田 明（平成8年～平成10年）
- 廣田 憲司（平成10年～平成11年）
- 梅川 健司（平成24年～平成26年）
- 川原田正樹（平成26年～平成30年）

昭和51年10月1日	大阪市より委託を受け事業を開始。
平成18年4月1日	大阪市より指定管理者の指定を受けて運営。
平成19年12月1日	入所定員80名に変更。
平成22年4月14日	「居宅生活移行支援事業」（第二種社会福祉事業）を定員2名で開始。平成25年3月31日付で更新がなく終了する。
平成25年4月1日	居宅生活訓練事業を定員3名にて事業を開始。
平成27年5月27日	生活困窮者自立支援法に基づく認定就労訓練事業を定員4名にて開始。
平成27年6月1日	自主事業として生計困難者に対する相談支援事業「大阪しあわせネットワーク」を開始。
平成28年4月1日	入所定員30名に変更 指定管理の更新。
平成28年4月1日	保護施設通所事業を定員15名にて開始。

### 公益的な取り組み

毎号シリーズで公益的な取り組みを紹介していきます。第4号は千里寮の就労訓練事業と就労準備支援事業及び福祉相談窓口等の取り組みです。長期にわたるひきこもり、失業後の長いブランクや、なんらかの障がいのため就職が困難な方を支援する、認定就労訓練事業を平成27年度に開始して以来14名が参加されました。訓練の流れは、やはりコミュニケーションが苦手な方が多いため、トイレ清掃などの単独作業から開始します。次に、他の訓練者と慣れてきたところで、シートと枕カバーをセットして数を確認するなどお互い話し合いながら行う訓練者同士の協力作業へと移行していきます。最終段階として、食堂の消毒など職員が行っている簡易な業務を切り出し、徐々にステップアップを目指します。これらを行っていく過程で責任感や自尊心を養ってほしい、そして、面接指導・就職説明会同伴など就職へと直接結びつけるサポートを行います。今までに、4名が就職、3名が他の支援機関へ移行、2名が療養で中止となり、5名が現在訓練されています。

これとは別に、平成28年8月より吹田市から就労準備支援事業を受託し、サテライト型事業所として運営しています。生活習慣を整える日常生活自立、コミュニケーション能力を高める社会生活自立、就労に必要となる知識や技能を身に付ける就労自立のサポートを行います。「個性をいかしながら他者といかにつながるか」を目指して、ひとつのテーマについて各自の思いをまず語り、そして即興で全身をつかって表現する「表現のワークショップ」や、看護師と栄養士による健康栄養講座など、事業の枠にとどまらない自立に向けたプログラムを行います。さらに、千里寮本館では就労体験や、卒業後の就労訓練先としても積極的な受け入れをし、就労訓練事業との協働はもとより、これまで形成してきた地域の施設連絡会・企業などのネットワークを利用して就労支援を行います。今までに、現在継続中の6名も含め、22名が参加され、うち9名が就職されています。

マンションを賃借している事業所（千里サテライトサポートステーション）は、その地域密着性をいかし、社会福祉士や精神保健福祉士といった福祉の専門職による福祉相談窓口を設けています。また、その地域での繋がりや、近隣のお母さんやお子さんを毎年恒例の千里祭（秋祭り）や、定期的に千里寮敷地内の畑、通称「千里ファーム」の収穫に招待するなど、地域の社会資源のひとつとして生活困窮者支援だけにとどまらない公益的な取り組みを目指しています。



## 介護保険事業

### 「獅子舞」披露で地域交流

みなとデイサービスセンターと第2みなとデイサービスセンターとの共同企画として、地元の高齢者の皆様が集まる区内各地域の「ふれあい喫茶」や「ふれあい食事会」などのイベント時に職員の演舞による「獅子舞」を披露させていただきます。

この「獅子舞」の頭（かしら）は、職員の手作りです。みなとデイの小猿（こえん）職員が、余った段ボールを器用に切り貼りして組み合わせ、本物そっくりの「獅子頭」を作りあげました。獅子舞の踊りは、皆さまでに喜んでもらえるよう、独自にコンパクトに演舞をアレンジしまとめたものです。小猿職員は、デイ利用者のみなさまへ季節のイベントとしてこの演し物を披露していましたが、素人ながらその本格的な演舞に利用者の喜びも想像以上のものでした。ぜひこれは地域にも「おすそわけしたい」「ご覧いただきたい」との思いから始まった企画です。

1月28日に八幡屋ふれあい喫茶（八幡屋老人憩いの家）、2月3日に池島ふれあい喫茶（海の子学園池島寮食堂）、3月8日に築港食事会（築港老人憩いの家）、3月17日は港晴地域食事会（港晴老人憩いの家）で、それぞれ演舞を披露しました。参加されたご来客のみなさまにはたいへん喜んでいただきました。

池島ふれあい喫茶では、獅子舞の頭（かしら）を見た海の子学園の子供たちが怖がって泣いてしまおうというハプニングもありましたが、勇気のある子は獅子舞に触りに来たり、獅子舞に頭を噛まれたりして楽しんでくれました（獅子舞に頭を噛まれると、「噛みつく」↓「神がつく」といい縁起が良いそうです）。

築港の「ふれあい食事会」には、地元選出の議員の方、地域消防署職員の方や、社会福祉協議会の方、港区包括支援センターの方なども参加され、賑やかな中で演舞を行うことができました。

港区内全域への参加を目標に、これからも私たち事業所の方から地域へと積極的に出掛けていきたいと思っております。施設機能を地域へ積極的に開放し社会貢献に努め、事業所の知名度を高めていきたいと考えております。

〔みなとデイサービスセンター 豊原由美子〕



### 弘濟院第1特養 内部研修



弘濟院第1特養では、高齢者や社会的弱者の権利が尊重され誰もが平等で差別のない社会で安心して暮らせるように、基本理念に沿った形で人権研修に特に力を注いでいます。

年間100回の職員研修を目標に取り組みしており、内部研修、外部研修などの機会を増やし、職員一人ひとりが常に学んでいる環境を作っています。

視野を広げることを目的に、平成30年1月から3ヶ月連続で外部講師を招いた研修を企画しました。今回の連続研修に関しては、弘濟院第1特養の家族会からいただいた助成金を活用させていただきました。

第1回目は1月15日（月）「接遇マナー研修」相手手を敬う姿勢・接遇を学ぶ、第2回目は2月26日（月）「リスクマネジメント研修」事故対応力と事故予防スキルを高める、第3回目は3月19日（月）「権利擁護研修」介護における法令遵守を「高齢者虐待防止」「身体拘束禁止」を通じて学ぶを実施しました。法人内の他事業所の職員も含めて延べ78名が参加しました。

その道のプロの講師を招いた研修は、職員にとって非常に「新鮮」です。施設内とは違ったものの見方や考え、知識を持った方からそれまでになかった発想やスキルを学ぶことができますので、柔軟性に富んだ職員を育成することができそうです。

現在の介護に満足することなく、今後も研修等を通じてサービスの質の向上に取り組んでいきます。

〔弘濟院第1特別養護老人ホーム 川見 亮〕

### 花見会 愛港園

毎年敷地内に満開の桜を楽しむ花見会を恒例行事としてしています。今回はたこ焼きとデザート、カラオケレクを催しました。職員が作ったたこ焼きを頬張ったあとに思い出したように桜に見入る方々。ちょうど満開の桜がひらりと舞う様子を見て「綺麗だな」と花見を楽しむ姿が見られました。

暖かい日差しからどんどん春が近づいていることが実感できました。

〔特別養護老人ホーム愛港園 坪内孝暢〕

